

第1学年 組 道徳科学習指導案

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
生徒数 名
指導者 教諭 T 1 T 2

- 1 主題名 支え合う家族 【内容項目C-(14) 家族愛】
- 2 資料名 「家族と支え合うなかで」 (『あすを生きる』日本文教出版)
補助資料: コラム『いのちを見つめ続けた詩人 相田みつを』 (同資料)

3 指導について

○ ねらいとする価値について

人間の生命は過去から受け継がれてきたものであり、今、自分が存在するのは祖父母や父母がいて、その子どもとして深い愛情をもって育てられてきたからである。そのことに気づき、家族への感謝と敬愛の念を深めることが大切である。また、家庭生活での在り方が人間としての生き方の基礎であることを十分に理解させ、家族との関わりを通して、家庭生活の中でどのような役割を果たせばよいかについて考えさせたい。また、家族の一員として積極的に協力していくことで、温かい愛情に満ちた家庭を築こうとする意欲を育てたい。

○ 生徒の実態について

中学生の時期は、父母や祖父母の言動やしつけに反抗的になったり、忠告をあたかも自分の存在を否定されたように捉えてしまったりする。また、保護者と中学生が共に生活の労苦を味わうといった機会が少ないため、家族の絆を自覚することも少なくなっている。

本学級の生徒は6月のHumanBeingにおいて、よき傾向として「家族と道徳の話をする」ポイントが高く出ていた通り、おおむね家族関係は良好であるものの、核家族が多く、高齢者との生活体験は少ない。

今回の授業で、あらためて、家族の良さや大切さに触れ、家族の中の自分の存在について考えさせたい。

○ 資料について

本教材は、筆者「私」が、年老いて体の自由がきかなくなった祖母の世話をすることを拒否してしまったことから、自分の身勝手さと自己中心的な言動に気づき、深く反省することから始まる。自分自身が幼い頃から家族に支えられてきたことや、福祉施設での介護ボランティア体験などから、自分の弱さを乗り越え、これから何をしていくべきかをよく考え、自分のとるべき方向を自発的に見出していく姿を描いている。

○ 指導にあたって

教材が生徒作文であり、等身大の素直な心情を追うことが出来ることを活かしたい。

「私」が誰の中にもある面倒を厭う心情から、祖母のために行動を起こすことで、祖母の存在を受け入れ、感謝の念が生まれるまでの心情の変化をおさえ、中心発問につなげる。

中心発問では、主語で分けて黒板にネームプレートを貼らせることで、異なる意見を持つ生徒とも対話できるように工夫する。また、板書によって、一つの行動が多方面へ幸福を広げていく様を伝え、お世話をされる側にも存在意義があることを感じ取らせる。

そして、お互いに支え合う価値を考えたうえで、自分が家族の中でできる役割について考えさせる。生徒の家族関係の多様性に配慮しつつ、家族の大切さに気づかせたい。

4 本時について

(1) ねらい

- ・家族から受けている無償の愛情や励ましに気づき、家族の一員として協力していこうとする実践意欲を高める。

(2) 展開

	学 習 活 動 主な発問(○◎), 学び合い活動(★)	引き出したい生徒の意見	教師の働きかけ(○)T2の動き 学び合い活動 (★) 評価(◆)
導 入	1 アンケートの結果を知る。 ○「あなたにとっての家族とは？」	- 一緒に住んでいる人。 - 世話をしてくれる人。 - 血がつながっている人。 - 相談できる人。 - 大事な人。	○事前アンケートの結果を伝える。 ○T2は、電子黒板を操作する。
／ 展 開	2 教材を読み、「私」の気持ちを考える。 ○「私」が逃げてしまったのは、どんな気持ちからだろう。 ○母の話を聞いて、「私」はどう思っただろう。 ○老人ホームへの訪問を通して、「私」はどんなことに気づいたのだろう。 ★【学び合い】(フリー) ◎「私」が祖母と関わることで、どんないいことが生まれるだろう。	- 汚い。 - いやだ。 - なんで私が。 - 恥ずかしい。 - 情けない。 - 祖母に悪いな。 - この人たちは、温かい心の交流を求めていること。 - 寂しい人々の楽しみ・喜びとなれたことへの嬉しさ。 - 祖母が喜んだ。 - 祖母に気力がわいた。 - 母が喜んだ。 「私」もうれしかった。	○T2は、電子黒板の範読を流す。 ○あらすじをおさえながら、「私」の気持ちの変化を確認していく。 ○T2は板書する。 ○いやなことから逃げる気持ちは、誰にでもあることを共有する。 ○老人ホームの話で、祖母の支えになろうと思った「私」の気持ちを丁寧に追う。
／ 終 末	3 価値について考える。 ○「支え合う」とは、どういうことだろう。 4 今日の授業を振り返り、感想を書く。	- できないことを助け合う。 - つらいとき、話を聞き合う。 - お手伝いをする。 - どんなときもそばにいる。 - 相手を受け入れる。	○「だれが(主語)」で分けて黒板にネームプレートを貼らせ、対話させる。 ◎全体の様子を見て、違う意見をもつ人と対話できるように声かけをする。 ◆自分の考えと違う人と対話ができたか。(観察・ワークシート) ◆家族から受けている愛情に気づき、自らも支えになろうとする意欲の高まりがみられたか。(ワークシート)